

成形不良未然防止のための成形技術

——不良原因の究明と対策

●不良ゼロ達成への基本と応用／トラブル事例と解説／対策法

●成形不良ゼロへの最短距離——まず何をするか／不良に関連する成形技術は／失敗を生かす手法／コスト低減対策など

本講座は、量産成形現場に通用する安定した成形技術の確立のため、不良対策において、まず何をしてみるのが良いのかの手順を述べ、次にその不良に関連する成形技術について分かりやすく解説。「不良品ゼロ」「クレームゼロ」のための的確な“不良の再発防止対策”

・開催日時 平成 30 年 12 月 13 日（木）10 時 00 分～17 時 00 分 ・会場 きゅりあん（4 階第 2 特別講習室）東京都品川区東大井 5-18-1
 ・参加費 正会員（個人・法人）29,200 円 一般（会員外）34,200 円（いずれもテキスト、資料及び昼食代を含む）

■講師および講義内容

担当講師	講義内容
<p>平成 30 年 12 月 13 日（木） 10 時 00 分～16 時 30 分</p> <p>高野技術士事務所 所長 高野 菊雄氏</p> <p>使用テキスト 高野菊雄著『プラスチック成形技術の要点—不良ゼロのものづくり技術の構築』（A5 判 260 頁、定価 2,916 円、丸善出版刊）を主テキストに使用。（書籍代は参加費に含まれます）</p>	<p>I. 不良ゼロ・直行率 100%成形、試作レス成形のための 5 ゲン主義に基づく事例研究による総合的成形技術の構築</p> <p>II. 樹脂の素性を知る——（1）熱可塑性樹脂の結晶性と非結晶性の差異 （2）樹脂およびグレードの性質を支配する要因——化学構造・高分子構造・改質剤・複合化</p> <p>III. 実践的成形不良未然防止のための成形技術</p> <p>1. ショートショット</p> <p>（1）寄与率の大きい要因</p> <p>① 樹脂の流動性と成形品の厚み、および流動距離の対比 ② ショートショットが発生しているところのベントと、そのメンテナンスの確認</p> <p>（2）原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① 流動性に対する許容最高樹脂温度の明確化 ② ベントの種類 ③ 多数個取りキャピティの同時充填のためのランナ設計 ④ 樹脂からの揮発物によるベント閉塞とメンテナンス</p> <p>2. ばり</p> <p>●原因究明と対策に必要な成形技術——樹脂特性とばり／金型の設計と構造に関するばり</p> <p>3. シルバー</p> <p>（1）寄与率の大きい要因</p> <p>① ベレットの吸湿率 ② 残留モノマーの検討 ③ キャピティ内でのエアの巻き込みの有無 ④ 樹脂からの揮発物の程度 ⑤ 樹脂の熱分解によるガス発生率</p> <p>（2）原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① 許容吸湿率の明確化と予備乾燥方式 ② 予備乾燥されたベレットのスクリュ供給までの間の吸湿防止対策 ③ 樹脂ペレットの許容加熱重量減少率の確認と対策——ナチュラル材と着色材の差異</p> <p>4. 異物</p> <p>（1）寄与率の大きい要因——① 異物の種類の分析 ② 流路での異物発生場所の確認</p> <p>（2）原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① 樹脂が流路内で異物化することの認識 ② 流路内面での熔融樹脂滞留とその対策 ③ 樹脂添加剤の異物化 ④ 分解清掃と洗浄剤による洗浄メンテナンス方法の確立</p> <p>5. ボイド・気泡・ひけ——① ボイド・ひけの発生理由 ② 形状設計とボイド・ひけ</p> <p>6. 光沢性・転写性</p> <p>●原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① 金型温度と転写性 ② ガラス転移温度・凝固温度を考慮した金型温度と転写性 ③ 樹脂からの揮発物のデポジットと転写性 ④ デポジットのメンテナンス—低分子物と高分子物</p> <p>7. フローマーク</p> <p>●ジェットイングの原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① ジェットイングが発生する熔融樹脂のゲート通過速度 ② ジェットイングと多段射出速度制御・タブゲート</p> <p>8. ウエルド——ウエルドを作らないための成形技術／ウエルドを目立たなくするための成形技術</p> <p>9. 寸法ばらつき</p> <p>●原因究明と対策に必要な成形技術——① 樹脂の成形収縮率 ② 成形機性能 ③ 金型温度の定義とその管理 ④ ゲートシールと寸法ばらつき</p> <p>10. そり・変形</p> <p>●原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① 成形収縮率の異方性 ② 成形条件依存性 ③ 成形品形状依存性 ④ ゲート設計と変形</p> <p>11. 成形品の破損</p> <p>●原因究明と対策に必要な成形技術</p> <p>① エステル結合のある樹脂の加水分解 ② 破面解析 ③ 過応力設計 ④ シャープコーナ ⑤ ウエルド ⑥ 流動配向 ⑦ ソルベントクラック ⑧ 残留ひずみ</p>